

(令和3年8月試験研究業務月報)

試験研究課題：新品種育成に関する試験(1)系統比較第12群

研 究

宇治茶の新品種を育成

他産地との差別化を図るため、「宇治茶の新品種」は、生産者や茶商工業者からつねに求められています。そこで当所では、京都の優良品種を交配^{※1}親として、収量性や品質に優れる茶の品種の開発に取り組んでいます。

現在、てん茶用品種の育成を目指して、収量の測定や一番茶を製茶した試料茶の官能検査^{※2}などを行っています。今年の一番茶について13の系統^{※3}を調査したところ、収量が多く、品質にも優れるものが1系統ありました。

今後は、生育状況や均整度の調査などを含め、同様の調査の年次反復を行い、品種登録を目指します。

※1 交配：種子を得るために、雌しべに花粉を受粉させること

※2 官能検査：視覚や味覚などの感覚を使って、対象の優劣などを検査する方法

※3 系統：種子から育てた茶樹を挿し木で増殖したもので、品種候補となるもの



浸出した茶の味を検査しているところ
(審査中はマスクをはずしていません)

農林センター（茶業研究所）